

# 常任委員会所管事務調査

## 相談支援の現状聞く

教育民生常任委員会（及川修一委員長、委員6人）の所管事務調査は12月8日、市役所でを行いました。市福祉課の佐々木学課長、村上利恵子福祉係長のほか、事業委託を受け



教育民生常任委

ている社会福祉法人愛育会「チャレンジドまちかど相談室リンク」管理者の鈴木志保氏から、相談支援機能強化事業について説明を受けました。リンクの鈴木氏からは、障がいのある人や発達障がいが気になる子どもで、本人や家族から年間1900件近い相談があるとの報告を受けました。また、ここ数年社会問題として取り上げられている、80代の親が50代の子どもの生活を支える「8050問題」が本市にも存在していることも聞きまし

## 産業振興条例に理解

（及川修一委員長）

産業建設常任委員会（鵜浦昌也委員長委員6人）は12月9日、市役所で今後の産業振興を進める上で必要と思われる条例制定の意義などについての知見を深

めるために所管事務調査を行いました。

講師は京都大学名誉教授で、京都橋大学教授の岡田知弘氏。リモート形式により、「中小企業振興基本条例（仮定の意義と効果）」について話を聞きました。



産業建設常任委

岡田氏は紫波郡矢中町をはじめ、京都府長岡京市や高知市での同条例制定に携わっており、「ぜひ、陸前高田市でも制定を」とアドバイスいただきました。

その理由として、条例を制定することにより地域経済が循環し、市民の生活向上につながることを挙げました。また、「市としては地域経済の担い手である中小企業の現状が正確に

把握でき、住民ニーズに沿った行政施策が展開できる」などと説明を受けました。

これまで、本委員会としても同様の条例制定について協議してきましたが、アフターコロナを見据えた産業振興を図っていくためにも制定の必要性を改めて実感しました。

（鵜浦昌也委員長）

## 復興対策特別委員会 誂石橋と旧吉田家住宅主屋視察

復興対策特別委員会（大坂俊委員長、委員17人）は12月9日、気仙川で復旧工事中の誂石橋（あつらいしばし）のほか、気仙町今泉地区に復元再建中の県指定有形文化財・旧吉田家住宅主屋を視察しました。



震災前の1車線（幅員約3メートル）から対面通行が出る2車線（同約6.5メートル）となり、安全確保と利便性の向上につながる状況を確認しました。

当初、下流側に新設する今泉大橋が国道340号として予定され、誂石橋の再建はなかったものの、下矢作地区を中心にした市民からの要望により再建が決まったもので、市が管理する橋としては最大規模となりました。

橋桁の高さは、今後、県が改修していく予定の気仙川堤防計画を見据えたものとなっていました。

委員からは自転車通学の安全確保策などについての質疑があり、警察や関係団体等と協議検討する内容の説明を受けま

## 第2回臨時会

令和4年第2回臨時会は、10月18日に行いました。新型コロナウイルス感染症の影響による支援金などを盛り込んだ令和4年度一般会計補正予算案1件を原案通り可決しました。

補正予算の内容は、歳入歳出予算の総額にそれぞれ2億1025万7千円を追加し、総額をそれぞれ229億683万7千円としました。

歳出の主なものは、いずれも新型コロナウイルス感染症対策関連で、住民税非課税世帯等臨時特別給付金事業費として1億3230万円、子育て世帯臨時特別支援金給付事業費3316万2千円、オミクロン株対応ワクチン接種に伴うワクチン接種事業費4479万5千円を計上しました。

（担当・蒲生哲）

## 三市議会議員交流

奥州市、大船渡市、本市の三市議会による合同研修会を11月7日、陸前高田市で開き、三市議会の議員総勢55人が参加しました。

初めに、市役所で市立博物館主任学芸員の熊谷賢氏による「文化財レスキューについて」の講演を聞き、その後、開館したばかりの市立博物館を訪れ、見学しました。講演と見学を通じて、文化財・歴史を継承することの意義と覚悟を全議員で共有しました。

（担当・木村聡）

